

～年代別ケータイ（携帯電話）生活実態調査～

**10～20代の若者のケータイ利用、「自宅での休養中」「就寝直前」で60%以上に。**

**することがなくて暇な時、10～20代の過半数が「ケータイでメール」。**

**自宅で休養中のケータイ利用では、「ゲーム」、「ブログ・SNS等」の利用率が「通話」と同レベルに。**

**恋人に相談する時は、直接会って話す以上にケータイ・メールを利用。**

博報堂研究開発局と博報堂DYメディアパートナーズi-メディア局では、この度、日常における生活者の携帯電話利用実態を把握するために、携帯電話を通じてインターネットを利用している全国の15～49歳の男女1,451名を対象に調査を行いました。分析の結果、年代層の違いによるケータイ（携帯電話）利用状況の違いが浮き彫りになりましたので、ご報告申し上げます。

これによると、10～20代の若者層は30～40代と比較して生活シーン全般でケータイを利用している割合が高く、10～20代と30～40代の間でのケータイ浸透度の差が浮き彫りになりました。

10～20代にケータイをよく使うシーンを尋ねたところ、「就寝直前（66.2%）」「自宅での休養中（66.0%）」「待ち合わせ中（58.1%）」が三大シーンとなりました。特に「就寝直前」「自宅での休養中」といったプライベートでゆったりとした時間において30～40代との利用率の差が大きいことが分かりました。

よくケータイを使うシーンである「自宅での休養中」の具体的な利用内容について質問したところ、10～20代、30～40代ともに「メール機能」が最多となり、「通話をする」を圧倒しました。また、10～20代においては「ブログ・SNSなど（33.9%）」「ゲーム（33.7%）」の利用率が高く、「通話をする（31.2%）」以上の水準となっています。

「することがなくて暇な時、何をするか」という質問に対しては、10～20代、30～40代ともに「テレビを見る」がトップでしたが、10～20代においては「ケータイでメール（54.0%）」という人が過半数を超え、「テレビを見る（68.0%）」に迫る存在感を示しました。また、テレビ視聴時におけるケータイ検索サイトの利用経験の有無を尋ねたところ、10～20代では過半数（50.6%）が「ケータイ検索を行ったことがある」と答えており、手早く詳しい情報を得るためにケータイを利用するという行動が広範に行われていることが伺えます。

日常的なコミュニケーションにおけるケータイの存在感の高まりを調べるため、「恋人に相談事がある時、どのような連絡手段をとるか」という質問をしたところ、10～20代では「ケータイでメール（58.4%）」が、「直接会って話す（54.1%）」を若干ながら上回る結果となりました。

10～20代は携帯電話でのインターネット接続は当たり前という世代です。今回の調査から、携帯電話への関心・依存度の高さは上の世代よりはるかに強いということが言えそうです。

注1）：本レポートでは、「10代」とは「15～19歳層（中学生を除く）」のことを指すものといたします。

注2）：本レポートでは、携帯電話の情報端末としての機能を重視し、特に「ケータイ」という呼称を使用しています。

◇調査概要◇

調査時期：2006年11月20日～12月3日

調査地域：全国

調査方法：郵送調査法（ケータイサイトモニターから抽出したサンプルを使用）

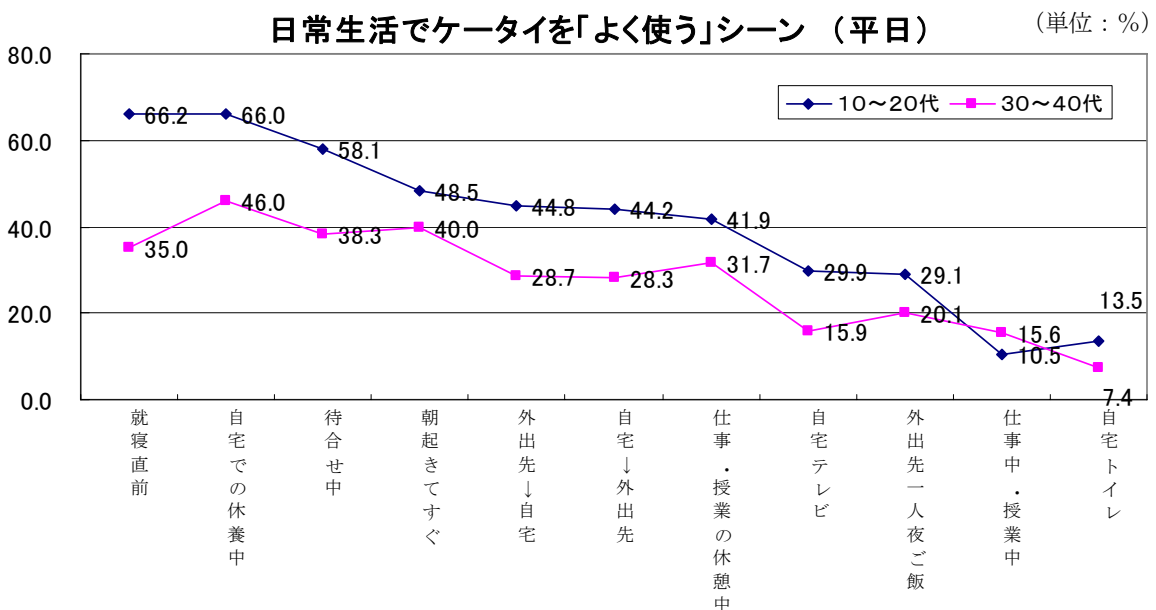
調査対象：15～49歳の男女（ケータイでインターネットを利用している層）1,451名

**(調査データ)**

■ **10～20代の若者がケータイを「よく使う」三大シーンは、「就寝直前」、「自宅での休養中」、「待ち合わせ中」。**

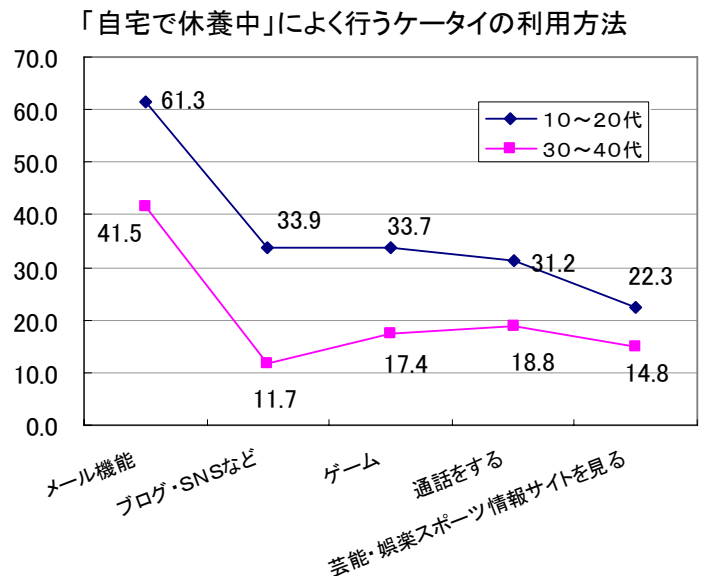
あなたがケータイをよく使う生活シーンはいつですか、という質問をしたところ、10～20代の若者層では「就寝直前（66.2%）」「自宅での休養中（66.0%）」「待ち合わせ中（58.1%）」が60%前後の高い数値を示し、これらがケータイ利用の三大シーンであることが分かりました。特に「就寝直前」では、30～40代の数値（35.0%）と比較して倍近い利用率となっています。

ケータイはいつでもどこでも利用できるという特性上、移動中などの合間によく利用されているイメージを持たれがちですが、実際には「自宅で休養中」や「就寝前のベッドの上で」といったプライベートでゆったりとした時間帯での利用率が10～20代で特に高いことが分かりました。



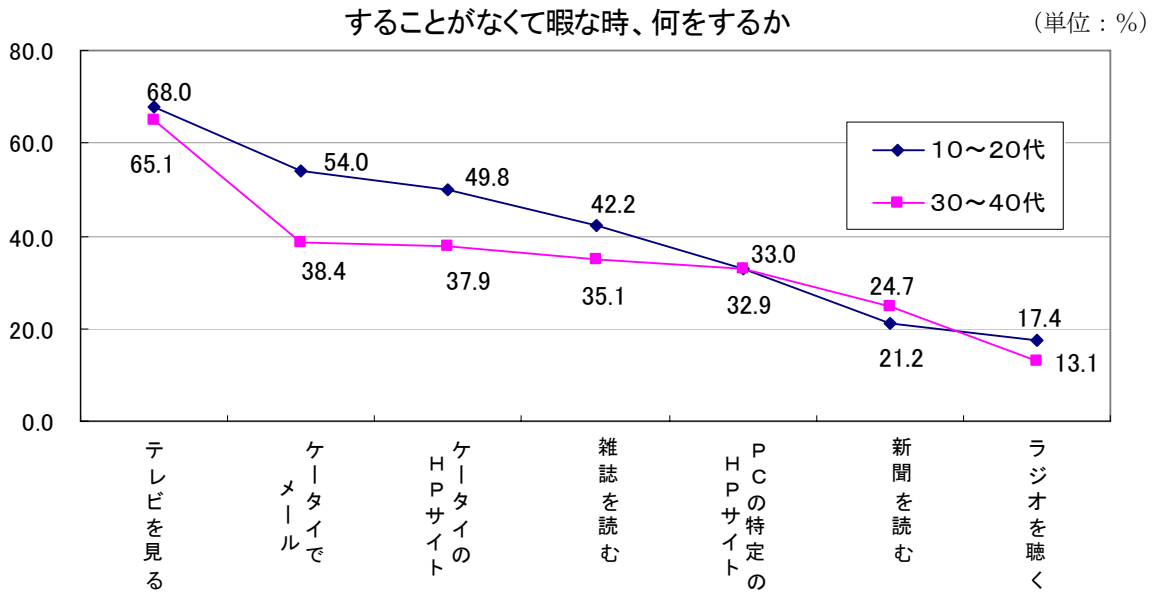
■ **「自宅で休養中」に最もよく利用されるのは「メール」。10～20代の若者では、「ブログ・SNS等」、「ゲーム」の利用率が「通話」利用と同レベルに。** （単位：％）

10～20代、30～40代がともにケータイを頻繁に利用するシーン「自宅での休養中」における具体的な利用内容について質問しました。その結果、両年代層ともに「メール機能」を最もよく利用しており、「通話をする」を圧倒的に引き離す結果となりました。また、10～20代においては「ブログ・SNSなど（33.9%）」「ゲーム（33.7%）」といった比較的新しい機能の利用が「通話をする（31.2%）」を上回っていることが分かりました。



■ **することがなくて暇な時、10～20代の若者の過半数が「ケータイでメール」。**

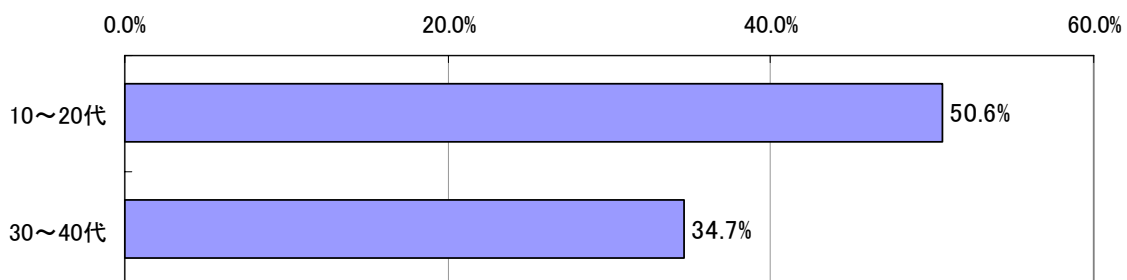
「することがなくて暇な時、何をするか」という質問をしたところ、10～20代、30～40代ともに1位は「テレビを見る」でしたが、10～20代においては「ケータイでメール（54.0%）」という人が過半数を超えました。また、10～20代では「ケータイでHPサイトを見る」という人もほぼ半数（49.8%）に達しており、30～40代（37.9%）と比較して高い数値となっています。ここからも、最近の10～20代の若者のすき間時間においてケータイの比重が徐々に高まっていることが伺えます。



■ **10～20代の過半数が、「テレビを見ている時、より詳細な情報を得るためにケータイ検索サイトを利用したことがある」と回答。**

テレビ視聴時におけるケータイ検索サイトの利用経験の有無について尋ねました。その結果、10～20代では過半数（50.6%）が「ケータイ検索を行ったことがある」と答えており、手早く詳しい情報を得るためにケータイを利用するという行動が広範に行われていることが伺えます。ヤフーやグーグルなどが提供するモバイル向け検索サイトが昨年より各携帯キャリアの公式ポータルに入ったことも、ケータイ検索サイト利用率向上に寄与していると思われます。

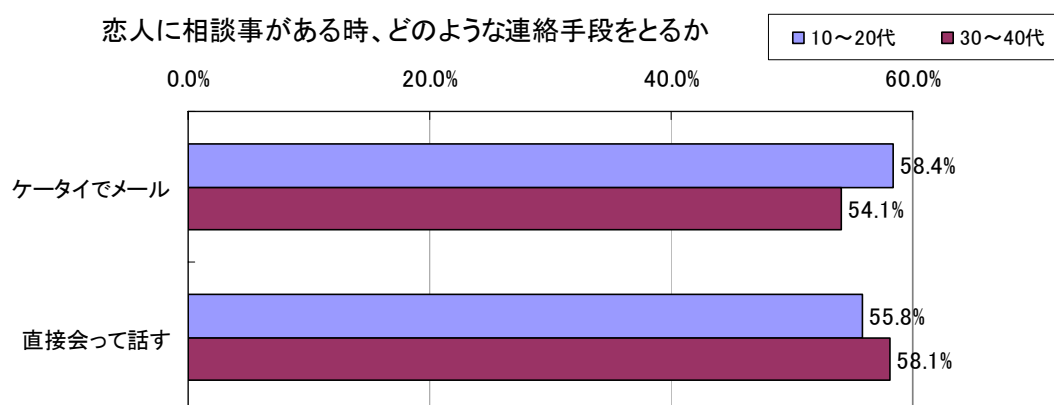
テレビを見ている時、ニュースや情報に興味を持って  
より詳細な情報を得るためにケータイ検索サイトで調べたことがある



■ 10～20 代の若者は、恋人に相談事がある時の連絡手段として、「直接会って話す」よりも「ケータイでメール」を選択している。

未婚者を対象に「恋人に相談事がある時、どのような連絡手段をとることが多いか」という質問を行い、「直接会って話す」と「ケータイでメールをする」の割合を比較しました。

その結果、10～20 代においては「直接会って話す（55.8%）」よりも「ケータイでメール（58.4%）」とする割合の方が若干上回る結果となりました。一方、30～40 代では「直接会って話す（58.1%）」とする割合の方が高いものの、「ケータイでメール（54.1%）」もそれに匹敵する割合で行われており、「恋人に相談する」という最も緊密なコミュニケーションシーンにおいても、幅広い年代層でケータイを用いたコミュニケーションが浸透していることが分かりました。



注)：上記グラフ内の数値は、各年代層ともに未婚者を母数とした割合。

各年代層における未婚者の割合は次の通り。10～20代 87.0%、30～40代 29.9%。

本件に関するお問い合わせ

博報堂	広報室	泉谷・宮川	Tel : 03-5446-6161
	研究開発局	坂本	Tel : 03-5446-6154
博報堂DYメディアパートナーズ	広報グループ	加藤・神子	Tel : 03-6218-9175